

幸福の手紙

審査総評

- ・「勇気をもたらった言葉」がテーマであったが、コロナ禍の環境、家庭環境、学校環境等様々な環境の中で生活する中で、勇気を感じることができる言葉や行動が日々あることが実感できました。毎日の生活の中で、勇気もらいそして与えられる行動をしていきたいと感じました。1人ひとり頑張っていることが感じられる「幸福の手紙」でした。
- ・最も「勇気」が必要なときは、未知の領域に一步踏み出して挑戦するときだと思います。未知の領域には、どんな困難が待っているかわかりません。あらかじめ成功や成果が約束されているわけでもありません。だから、挑戦するときは誰でも不安で心細いと思います。しかし、何の挑戦もしなければ人生の新たなページを開くことはできません。あらゆる成功や成果は、現状を維持するだけでは決して得られません。そもそも、社会情勢は時代の流れに沿って変化し続け、自分自身も毎年確実に年齢を重ねるわけですから、維持できる現状などは元々ありません。だから、いくら不安で心細くても、私達は次のページを開かなくてはならず、挑戦し続けなくてはならないのです。押し寄せる不安やネガティブな気持ちを克服して、未知の領域に挑戦しようとするとき、家族や仲間達の応援の言葉が怖気づきそうになる私達の背中を押してくれます。家族や仲間達の応援の言葉に「勇気」をもらって、ようやく新たな挑戦に向かう一步を踏み出せるだと思えます。皆様の作品を拝読させていただき、「ずっと味方だから」「将来の心配は明日の朝食のことだけでよい」「チームではなく家族だから」「残念なことは一つもない」「自分に〇を付けてあげて」等々の様々な応援の言葉を拝見し、私自身も新たな挑戦をする「勇気」をいただいた思いです。
- ・コロナ禍の中でひたむきな生活環境の様子に心を打たれました。高校生活や職場での出来事の素晴らしい出会いを大切に表現されていましたし、その事が将来にも影響する言葉を大切に生き、努力していくありさままで想像できる表現力のある手紙もありました。これからも何気ない日常に感激し、楽しんで欲しいと願います。明るく、強く人生を楽しんで頂きたいと思えます。
- ・No. 11：コロナ禍でのエピソードで、介護福祉士を目指すようになった現在改めて「握手」が教えてくれた「人と触れ合う勇気」に気づけたことが素晴らしいと思った。No. 123:介護の仕事の日常が、そのことが非日常である人にとっては感動であることが「介護は誇らしい仕事」と気づかせた介護賞職員たちにとっても勇気もらえる言葉と感じた。No. 129:エッセンシャルワーカーたちの気持ちを支えてくれているのは、まさにこのようなご利用者やご家族の存在であることを再確認できるステキなエピソードだった。以上の3作品が特に良いな、と感じた作品です。
- ・普段する生活の中で、人を感動させたり勇気づける「誠実な言葉」が多く溢れているのだと改めて感じました。困っている人に対し、一生懸命言葉を探し、相手を勇気づけようとするとき、少しでも相手の顔に明るさが感じられた時、自分も励まされるのだと感じます。人と人の良き関係性は「相手の為に」考えた言葉が作ってくれるものなのだ改めて思いました。
- ・時期的に仕方ないと思いますが、やはりコロナに関係する文章が多かったように思えます。読んで見て感じたのは、みなさん様々な体験をされているんだな、そしていろいろものを胸に秘めている

のだな。という事です。どの文章もとにかく感動しました。自分も誰かに対して、勇気を与えられる存在になりたいと強く思いました。

- ・コロナからの回復期を迎え、全体的に明るく望に満ちた手紙が増えたと感じました。いつだって「誰か」からの「ありがとう」で人は笑顔になるんです。
- ・コロナ禍での学生生活は、長期にわたり様々な活動が制限されていました。心が疲弊しまいそうな状況の中、ある人の言葉で元気をもらったり、その後の人生を変えるような言葉には本当に「言霊」があるように思います。私も心に響く言葉がいくつかありました。作品に応募された方々は、こんな素敵な言葉をいただけた方に感謝ですね。その他 No 1 3、No 2 5、No 8 8 もよかったのですが、1 0 作品しか選ぶことができませんでしたので、何度も繰り返し読ませていただき、上記 1 0 作品を選びました。